地方創生に関する特別委員会会議記録（概要）

平成２９年８月２４日（木）

開　　会（午後１時３０分）

（所属変更委員のあいさつ）

（席次の決定）別紙のとおり

（執行部の自己紹介）

（書記の紹介）

【議　　事】

（1）ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想の概要について

【概要説明】

市川経営企画課主幹

説明の流れといたしましては、資料１に記載していますとおり、「提言への対応」、「（仮称）ところざわサクラタウンの現状」、「構想の目指すもの・市の事業等」、「松郷工業団地周辺地区の計画について」の順で説明をしてまいります。

では、一つ目の項目「提言への対応」につきまして、資料２「平成２８年９月提言への対応状況について」をお願いします。平成２８年所沢市議会第３回定例会におきまして、こちらの「地方創生に関する特別委員会」よりご提言いただきました内容について記載しております。はじめに「１．

民間事業者と所沢市が行う事業や責任を明確化すること」です。資料２－１①及び②を使用させていただきます。所沢市と株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡの役割分担につきましては、平成２８年３月に策定しました冊子「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想」及び同年６月に締結しました「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想の推進に関する協定書」に明記しております。第４条のとおり、市及び株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡの責務を示しており、「所沢市の魅力向上及び継続して発展する都市基盤の構築に寄与すること」としております。所沢市の役割は、主に公共インフラ整備等を進めることで、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡは、第３項のとおり、角川ロックミュージアムと名づけられる予定の文化コンプレックスの施設を「クールジャパンと文化の発信拠点」とし、所沢市の文化都市としての発展に協力することとしております。それぞれが担う、具体的な役割とそれを実施していく時期につきましては、資料２－１②をご覧ください。こちらは本年３月に発行した構想パンフレットからの抜粋になりますが、マイルストーンと書いておりまして、横軸に時期、縦軸にそれを行う組織を記載し、広く市民の皆様にお知らせしているところです。なお、市の役割に関する具体的な事業及び今後の予定等につきましては、後の項目において説明します。

　次に「２．「（仮称）ところざわサクラタウン」周辺の環境整備及び文化コンプレックスの今後の方向性について情報公開に努めること。」です。資料２－２①②「サクラニュース第５号、第７号」をお願いします。構想

の周知に当たりましては、先ほどのパンフレットでも行っておりますが、こうした２、３カ月に１回発行する情報紙も作成しております。この情報紙は、建設予定地の地元にあたる東所沢及び東所沢和田、また東川自治会において行政回覧を行っているところです。なお、市のホームページでもご覧いただけるようにしております。

次に「３．ふるさと納税の活用を検討すること。」ですが、資料２－３①②をお願いします。こちらは、これまでのふるさと応援寄附の実績を示した表になっております。本市におきましては、平成２９年３月をもってふるさと応援寄附に対する返礼品を廃止したところです。ただ、ふるさと応援寄附の受け入れを終了したものではなく、引き続き「地域産業の活性化に関する事業」の主要項目として「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ ＦＯＲＥＳＴ構想の推進」を掲げ、この施策に賛同していただいた方のふるさと応援寄附へのご協力をお願いしてまいりたいと考えております。なお、資料に示しているのは、返礼品廃止前の状況になりますので、廃止後の経緯については平成２９年度の実績をお待ちいただく形になります。

次に「４．予算・決算審査時において、同構想に関連する費用を分かりやすく明示すること。」ですが、資料２－４①②をお願いします。こちらの資料はいずれも「第５次所沢市総合計画 実施計画書（2017～2020）」の冊子から抜粋したものです。①「都市基盤・施設の整備等にかかる主要な事業」ですが、右下に二つ「吹き出し状の囲み」がありまして、ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ ＦＯＲＥＳＴ構想に関連する事業を図面で示したものに

なります。次に②ですが、こちらは「所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略「重点プロジェクト」別事業まとめ」ということで、一つ目の項目に「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想」の推進という項目を設けており、関連する事業の予算額をまとめたものを提示しております。なお、平成２９年所沢市議会第１回定例会においては、議案資料として関連事業の事業概要調書にはＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ関連事業という記載を示しており、なるべくわかりやすい形で予算の内容をお示ししてきたところです。なお、今後決算の審査をいただく流れになると思いますが、わかりやすい資料の提示ができるように事務局と調整していきたいと思います。

　次に「５．地域住民に対し、丁寧かつ真摯な説明会を開催すること」ですが、資料２－５①②をお願いします。①は、「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想に関する説明会等」ということで、一覧を示しております。内容は、特に近辺の住民だけを対象としたものではなく、平成２８年度以降に市民等を対象に実施した説明会を一括して掲載しているものです。この中で、地元に関連するものとしては、平成２８年7月２日松井まちづくり協議会での夏季セミナーと、平成２９年４月２２日サクラニュース出張報告会が地元の方たちを特に対象とした説明会でした。なお、サクラニュース出張報告会については、資料２－５②としてチラシを付けております。このような形で、地元住民には説明会等を開催しているところです。なお、「（仮称）ところざわサクラタウン」の開発に関する説明会は、所

沢市街づくり条例に基づく近隣説明会を平成２９年５月２０日及び６月６日に実施しております。「提言への対応について」のご説明につきましては、以上です。

続きまして、資料１に戻りまして、（仮称）ところざわサクラタウンの現状について説明します。資料３の「開発事業計画のお知らせ」の写真と、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが開催した住民説明会で配付された資料４「ところざわサクラタウン新築工事近隣説明会」をもとに説明します。「開発事業計画のお知らせ」では、新築工事を行う施設等の基本的な情報等をご覧いただくことができます。まず、開発事業区域の面積が４０，３３２㎡とあります。これまで古いパンフレット等で約３７，０００㎡という敷地でお話してきましたが、衛生センターの導入部分については売却の契約が完了しておりますので、約３，０００㎡加えまして、現在の開発事業区域の面積は４０，３３２㎡になります。なお、建築面積は２３，８３１㎡、延べ面積は８３，２２１㎡、階数は、法定の階数になりますが、地上６階、地下２階になります。高さの最高点は４１．３８ｍ、工事期間の予定は２０１７年１０月１日から２０２０年７月１日の予定となっています。なお、先ほどの近隣説明会の結果については、一番下の段に「近隣説明結果報告書提出日」ということで、平成２９年７月３日の段階でこの報告書を市に提出されているということが、建設予定地の外壁に掲示されているところです。次に、資料４をお願いします。１ページ目に、資料の概要が示されています。項目１は、これまでパンフレット等でお知らせしている内

容などを概要としてまとめたもので、特に建物の概要については８ページ以降になります。実際現場での説明は株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡからされましたので、私の方から詳細について説明するものではありませんが、内容を大まかにご覧いただくと、１３ページ以降が配置図、断面図になり、１４ページをご覧いただくと、横から見た断面図になります。先ほど資料３で説明した階数ですが、法定上の階数と記載したのは理由がありまして、この敷地は南側のほうが高く、北側に向けて下がっていく土地になっております。従って、地面の高さから見た階数表示ですと、法定上では地下１、２階があり、その上に６フロア建つという考え方になるそうです。ただし、川のほうから見たときには、１階のところ、いわゆる地下に入るのではなく、地面からの高さで入っていくと、印刷工場１階のところになる、という感覚になりますので、建物の表記上は１階から７階になると聞いております。なお、ホテルですが、これまでパンフレット等でお知らせしているところでは、さらにタワーのようなホテルが建つイメージでしたが、ホテルのコンセプトを見直して、アジアのリゾートホテルのようなイメージのものにしていきたいと考えているようなので、平面的な、庭園を楽しむホテルにしていくということで、デザインが変わってきているという経緯があるようです。また、資料の１９ページ以降ですが、上から見た図面があります。平成２８年８月に都市計画変更の手続が完了しておりますが、そこで示されているとおり、敷地の西側に遊歩道が設置され、また、北面には、千人テラスという表示があるところに１，５００㎡以上の広場

を確保するというところです。また、図面上では線が引かれていませんが、千人テラスにつながるような形で、自由通行ができる通路、および東所沢公園側から自由通行ができるような通路が確保されているのが確認できるかと思います。なお、それぞれの面積ですが、資料の縦横の線が、１０ｍのマスになるので、そこから広さについてははかり知っていただければと思います。資料の３１ページにスケジュールが示されておりまして、現在工事については、衛生センターの導入路を廃止したことによる擁壁工事をしているところで、本体の工事にはまだ着工しておりません。着工の予定としては１０月から開始するということで、現在は開発申請が行われている段階だということです。なお、竣工は２０２０年３月半ば頃で、その後開業の準備をし、東京オリンピック・パラリンピックが２０２０年７月２４日からの開催ですので、それまでにオープンを目指すと聞いております。なお資料については３２ページ以降に工事段階でのイメージなどを示しており、説明会の場では建物のつくりに関しては特段の意見はなかったようですが、工事の期間を含めて開業後の車両の混雑などは心配をされる声があったと聞いています。交通上の対応については市と株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡで協議等を進め、周辺の渋滞が発生しないように対応していきたいと考えています。

　次に、「構想の示すもの・市の事業等」についてご説明します。資料５－１、５－２をお願いします。また、資料１にも概要について文言で説明しているところです。ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想は、本市へ

の愛着、定住意向の向上をまずは目標としているものです。所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点プロジェクトにも位置づけているとおり、こちらのエリアに、暮らす場所の近くには働く場があり憩いの場があり、また人々が集う場があるエリアを構築していくことをまずは進めていくものです。こうしたエリアによって、生産年齢人口の流入が促されていくのではないかという仮定をして、そうしたモデル地域として、重点推進エリア「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ」を作り上げていこうという考えがあります。資料１の、重点推進エリアのところに、働く場、憩いの場、人々が集う場を作り上げていこうと考えており、それぞれ具体的にどのような整備を進めるのかというところで、特に市の部分だけを抜き出していくと、働く場という部分では、（仮称）ところざわサクラタウンで発生する雇用だけではなく、サクラタウン周辺の地域の産業用地化を進めることで企業誘致や起業の促進を図ることによって、雇用を生み出していこうという考えがあります。また、憩いの場というところですが、水辺の散策を楽しむような環境を整備して、一人ひとりが思い思いに過ごすことのできるエリアを創出していくことを考えています。具体的には、周辺道路の整備、東川散策路や東所沢公園の整備などを考えております。また人々が集う場ですが、サクラタウンの中に完成する角川ロックミュージアムやジャパンパビリオンというイベントホールもありますので、建物の中だけで完了しないで、所沢のＰＲができるようなポイントを作って、ＫＡＤＯＫＡＷＡコンテンツを楽しみにくる国内外からの観光客に所沢の良さ、魅

力をＰＲしていくという考えがあります。具体的な事業としてはコンポストセンターの跡地を活用していく中で考えていくということがございます。具体的な事業を個々に示したものとしては、資料５－１をお願いします。これと、資料５－２が項目ごとに表記がリンクしているところで、一番上の「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想推進事業」については、主に文化創造会議などの啓発的な事業になるので、図面上でははかり知ることはできませんが、「市道２－５７２号線改良事業」については、東川沿いの３００ｍの市道の部分を拡幅して、歩道を整備するところで、現在基本設計が進められているところです。また、「衛生センター改修事業」「衛生センター用地売却事業」は、衛生センターの導入路の部分を遊歩道として整備するために株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに売却した、その流れの予算です。こちらについてはいずれも平成２８年９月の補正予算で対応したものです。「市有財産活用事業」「旧コンポストセンター跡地利活用事業」については、サクラタウンの建設予定地から見ると東川を挟んで北側のコンポストセンター跡地を利活用していく上で、必要な整備を進める事業です。こちらについても現在基本計画等を検討する段階になっており、整備の手法についてはＰＦＩ方式の導入なども含めて検討を進めている段階です。こちらについてはある程度今後の見込みが立つ時点で、平成３０年度以降に事業予算の審議をお願いすることになるかと思います。また、「外国人観光客受入整備事業」として、案内板の多言語化を進めることや、周辺地域でのＷｉ－Ｆｉ環境の整備等を進める予定です。また、資

料の二重線以下ですが、まだ事業として成立していないところですが、今後事業化していく予定ということで示しております。まず、「松郷工業団地周辺地域土地利用転換」ですが、後ほど資料６に基づき補足の説明をしますが、現在市内３エリアを、産業用地化する上での土地利用転換推進エリアと設定し、検討を進めているところです。現在の段階では具体的なエリアが設定されているわけではありませんが、地域の皆様のご意見などを伺いながら、今後の方針の決定をしていこうということで検討を進めている段階です。こちらについてはまだ区画整理事業とするのか、民間の開発を促進する形での整備を進めるのかについても、現時点では決定していない状況です。次に、「東所沢駅前通り歩道整備」ですが、東所沢公園から東所沢駅までの導線を、鉄道利用者のサクラタウンへの玄関口になるように、歩道などにＫＡＤＯＫＡＷＡコンテンツを活用したオブジェを置いたり、歩道がさらに歩きやすくなるような整備などを考えております。次に、「東川沿い散策路整備」ですが、東川の北側のほとりにウッドチップを敷き詰めたり、桜の植樹を行って散策ができるような整備を進めたいと考えています。具体的にどこの経路まで行うかについては、現在検討をしております。最後に、「東所沢公園整備」ですが、先ほど申し上げたとおり、鉄道利用者の玄関口という形で導線を考えていますので、東所沢公園内の園路の整備や、広場の噴水が現在停止しているので、そういったところの調整を進める予定です。なお、資料の表の中で網掛けになっている部分がありますが、国の地方創生交付金の対象とされているところで、それぞれ

の年度で国の交付金の名称も変わってきた変遷もあるので、下の段に凡例を載せています。なお、平成３０年度については、まだ予算は認めていただいていませんが、既に地域再生計画を国に認めていただいており、実際に予算化された段階で、その金額に応じて交付金の額が決定されることになりますが、ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想を推進するということについては交付金の対象としていくということで、既にお墨付きをもらっている状態です。

　次に、松郷工業団地周辺地区の計画については、資料６として、「産業用地創出基礎資料作成業務委託報告書」の概要版から、松郷工業団地周辺地区部分を抜き出して説明します。いくつかご質問として、松郷工業団地周辺の産業用地創出・土地利用転換については、いろいろな案が提示されており、どのような方向で進めているのかわかりにくいというご意見があったと伺っており、そのもとになっているのがこの資料なのだろうということで示しています。これについては、平成２６年度に産業経済部で行った基礎資料作成業務委託の中で示されている、現状のこの地域の状況を踏まえて、どのような産業用地創出を進めるのが効果的なのかという検証の結果です。ですので、これを参考に市としても具体的な区域内での土地利用転換を進める方針を検討していく材料という状況です。１３ページの（２）区域案とあるとおり、①早期事業完了案と②大規模用地創出案という形です。つまり、ある程度面積を抑えて早期に事業を完了させるのであれば①の案で進めることが適している、といった現状を分析した結果が示

されているものです。現時点では、どのような形で進めるかについてはまだ決定していないところで、地権者の皆さんから意見などを聞きながら、現在区域設定なども含めて検討を進めております。おそらくこの資料などが発端になっているのかと思いましたので、こちらについては資料を提示させていただいたところです。

【質　　疑】

大石委員

　この特別委員会では、ミューズで行われた第１回文化創造会議において山本マーク豪氏が紹介された多摩市のコンティ多摩センターに昨年の４月に視察に行きました。また、全員協議会において角川会長から所沢シリコンバレー構想というふうに謳われ、所沢での起業の仕組みづくりを行いたいとの大きな夢を語られた。しかしながら、山本氏がアドバイザリーボードからいなくなり、また、サクラタウンの図面から起業スペースがなくなっている。託児所スペースも見当たらなくなっている。その点について当初の計画からなくなった部分についての関連について説明をお願いしたい。

市川経営企画課主幹

　まず、コンティの機能に関してですが、山本氏につきましては、アドバイザリーボードとして引き続きいらっしゃいまして、今年度作成した新たなパンフレットの中でも顔写真入りで紹介しています。ただ、コンティ多摩センターという施設自体は、営業を終了しているようです。サクラタウ

	ンにおいてコンティとして運営するかどうかは株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側と山本氏との協議になると思いますが、起業支援につきましては、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側から資料４の２２ページの５階平面図のオフィスがあります。このオフィスというところが、今後の株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ自身のワークライフスタイル改革を進める側面と、ベンチャー育成支援のフィールドとして提供すると考えていると聞いています。このエリアにおいて起業支援が行われると聞いています。 　つぎに、託児所のスペースについてですが、企業内保育所とすることも含めて設置していく方向で考えていると聞いております。設置するとなれば、上のフロアは適しておらず、下のフロアの特に住宅の面に向いているようなところでスペースを確保していくつもりであるが、実際にどこの位置に設置するかまでは確定していないと聞いています。株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡの方向性としては託児スペースは確保していく方針でいるということです。
大石委員	松郷工業団地に関連して起業を増やしていこうという所沢シリコンバレー構想については、今後も議論をして進めていく方針なのか。託児所については、あくまでも企業内の子どもを対象とする方針なのか。
市川経営企画課主幹	所沢シリコンバレー構想につきましては、その構想は現在も生きておりまして、サクラタウンの敷地内だけではなく、松郷工業団地周辺の土地利

用転換を進めるなかで、そのエリアの中をシリコンバレーのような緑豊かな産業用地とする開発の仕方もあるのではないかという考えとしては今も残っています。ただし、どういう形で土地利用転換するかという手法が定まっておりませんので、具体的なものをお示しすることができていない状況です。目指す先は、所沢シリコンバレーを今も掲げています。

　託児の受け入れの対象についてですが、こども未来部とこの地域の需要についてお互いに意見交換をしておりまして、単なる企業内保育所がいいのか、地域の子どもも受け入れる認可保育所がいいのかも含めて、どのような運営をしていくかについて、現在株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが検討しています。少なくとも子どもを預かるスペースは間違いなく確保するというふうに株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡは考えています。

城下委員

　コンティ多摩センターに視察に行った際に、山本氏と話した内容では、実現性については、お金をもう集めているという説明があった。コンティ多摩センターは会員が集まらなかったために閉鎖するとホームページに掲載があり、託児所についてもニーズに合わせて検討すると今説明があったが、当初の計画から起業支援や託児所の規模がどのように変更されているのかが見えてこない。気がついたらなくなっていたというふうになってしまう懸念があること。

　５月の全員協議会室における説明では、当初は高層のホテルであったが、その説明の段階では近隣住民からの要望で平場のホテルになったとの

説明であった。ホテルの規模縮小と受けとめたが、インバウンドなどの当初の想定していた数よりも減ることから、このような変更となるのか。この変更について株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡからどのような説明があったのか。

市川経営企画課主幹

コンティ多摩センターの運営に関しては、直接サクラタウンに関係がないことから、コメントは差し控えます。

託児所については、プロポーザル時における提案書のなかで提案を受けているので、その約束は守ってもらうことになるので、託児所の機能がなくなるということはありません。規模については、企業内保育所になればその需要を勘案して株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側で設定するものとなります。地域の子どもを対象とする場合には、その規模についてはまた別に考えるものとなります。

ホテルについては、当初からの変更については、ホテル部分のスペースが狭く複数階あったものが、スペースを広げてワンフロアとなったと考えています。当初のものは３０室から４０室を想定しており、現在のものも図面では３４室あり、ホテルの事業としては縮小されたものではないと考えています。

インバウンドの集客についても、これまでの構想の冊子のなかでも示している７５万人から１５０万人について、下方修正が公表されているものではありません。特に集客力が落ちたものではないと捉えております。

中村委員長	事実の確認ですが、プロポーザルで売却した際、協定においては保育所の設置は必置義務ではなかったのではないか。努力義務ではないか。これについて、プロポーザルの文書において事実を確認してほしい。 また、ホテルについては、当初、議会に説明があった際には、１２０室から３００室と説明されていたので、ホテルの部屋数について、事実として把握されている数をお示しください。
桑原総合戦略推進担当主査	募集時におきましては、こども未来部から企業内保育所があったほうがよいという提案があり、必置ではないが募集要項において記載した。必置ではないが、プロポーザルにおいては点数に影響するものでありました。結果、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡは企業内保育所について提案をしたものです。
市川経営企画課主幹	募集要項においては、こども未来部からの表記として、「従業者を多く要する事業所等を計画する場合はその従業者数に応じた乳幼児預かり施設（企業内保育所等）などの設置に配慮してください」との記載がありました。
中村委員長	提案書のなかでは、どのような記載であったのか。

市川経営企画課主幹	提案書では、「９００人以上の従業者を要する事業所を計画しておりますので、利用児童規模３０人から５０人の保育所の運営から始めていきたいと考えています。」という表記で提案されています。 ホテルにつきましては、これまで市に図面として提示されてきたものにおいては、１００室を超えるようなものはありませんでした。経営上、成り立つであろうという数字が３０室から４０室であるというところで、これまでの計画図面において１００室という数字のものはありませんでした。
平井委員	ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想の推進に関する協定書について確認だが、民間事業者と所沢市の行う事業の責任を明確化することについて委員会として提言をしたところであるが、協定書の第４条において、所沢市及び株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡの責務として、第１項で「本構想を効果的に推進し、所沢市の魅力向上及び継続して発展する都市基盤の構築に寄与する」ことと、第２項で「重点推進エリアにおける必要な公共インフラ整備等を進め」とし、この２つについて、市は責任を持ってやるということが書かれているのだと思うが、今回お金に関する資料が３つほど示されているが、資料５－１の「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想」関連予算で４億７，１４２万２，０００円、資料２－４②の所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略「重点プロジェクト」別　事業まとめの金額と資料２－４①の都市基盤・施設の整備等にかかる主要な事業にはお金に

ついては記載がないが、これら３つについて所沢市が責任を持つのであれば、今現在どのぐらいのお金がかかっているのか。

また、協定書そのものは所沢市と株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが締結しているが、協定書を締結するに当たっては、会議などがあったのか。また、その会議録はあるのか。

もう一つは、資料１の説明において、この構想は、「定住意向の向上を目標として、暮らす場所の近くに、働く場があり、憩いの場があり、人々が集う場がある。」とあったが、所沢市は、市としてもっと人が流れて、定住して欲しいと、そのためには働く場として周辺地域の産業用地化を進めることで、企業誘致をするということが書いてあるが、説明を聞いていて集客と定住は別な要素なものではないかと感じている。少子化に向けた定住策としてはいろいろなものがあるが、子どもの問題で住みやすいまちにしたりする例は多いが、所沢市の場合には、企業誘致によって人を集めることにより、定住の促進を目指していると読み取れるが、本当にこれで人が来るのか。また、全体としてＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想を見てもリピーターですら疑問である。定住案についてよくわからない。以上の３点について詳しい説明をお願いしたい。

市川経営企画課主幹

まず、資料５－１と資料２－４②との整合性について確認ですが、資料５－１につきましては、見込額の欄、平成３０年度以降の額を現在、実施計画として表しているものについては、この欄に金額が入っています。そ

れらを全部合わせると合計が４億７，１４２万２，０００円になります。資料２－４②につきましては、現在の実施計画の最新のものとなりまして、平成２９年度の事業費となります。これに当たる額としては、資料５－１の小計の欄の一列左の欄の３億１，２２２万４，０００円と整合することになります。資料５－１につきましては、現段階で数字がわかっているものを入れ込んでいるものですので、実際に今現在予算がついているものは平成２９年度の欄を見ていただくことになります。

平成３０年度の予算の審議をお願いする際には、改めて関連事業という形でお示しする予定です。

定住の促進については、第５次所沢市総合計画の重点課題のなかにある所沢市への誇り、愛着を喚起していくというのが第一義としてありまして、その一つのランドマークになるという意味ではところざわサクラタウンはまずは魅力があるまちを構築していくうえでの定住促進という部分で、大きな要素であると考えています。また、企業誘致で働く場所ができることが定住促進につながるのかということですが、所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に当たり窓口アンケートの実施を行ってきたなかでは、引っ越し先に選ぶまちの選択する際の一番の理由は、「通学・通勤のため」が一番大きな要因であったことから、仕事のあるまちにしていくことが一つの大きな要素であると考えているところです。総合戦略の中ではこの方向性を示しまして、人口流入や定住を進めていくうえでは一つの大きな施策であると考えています。ただし、戦略の中では直近の５年

間については、子育て支援や福祉といった安心につながる施策を打っていけるような土台を作るということから、その前段として魅力と元気を向上するといった展開があるものであることをご承知おきください。

次に、協定書の会議録ですが、平成２８年５月２４日の第２回チームスタート本部会議において、これは所沢市内部の会議で、協定書案の確認と情報共有した後に、同月２７日に協定締結に関する報告を株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡとの会議の中で行いました。協定締結は、６月に協定締結式として公開の場で行っており、その際の会議録はありません。

平井委員

この協定書に基づいて、都市基盤という名のもとや重点エリアに必要であるから公共インフラの整備はよいといった形で、際限ない財源の拠出となることを心配しているのですが、それの歯止めをかけるようなものが必要であると考えたため、提言において明確化としたのであるが、協定書では明確化とは読み取れないが、他に市として、これまでは支出できて、これ以上は支出できないといったものがあるのか、確認したい。

市川経営企画課主幹

「事業の範囲をここまでで止めます」といったことを明文化するようなものではないと思いますので、逆に「こういったことをやります」といったことをパンフレットや冊子でお示しをしています。あまりにもここから逸脱して大きな事業をやるようであれば、事務局としても当然何らかの説明をしていくことになるかと思いますが、現在のところは、構想の冊子の

範囲の中で取り組んでいるものと認識しています。

島田委員

施設の全体の収入の内訳は把握しているのか。倉庫やオフィスの部分といわゆるコンテンツの部分の２つに分かれているが、先ほどの説明を聞いて、集客数が最初の想定よりも減ってきているのではないかという印象を受けた。主である倉庫部分での収入があるので、コンテンツで躓いてしまってもきちんとやっていけるといいようなことを知りたいので、収入に関する内訳やそれに準ずる内容が分かるか。

市川経営企画課主幹

構想冊子を作った時点では、大まかな事業レベルでの収益、集客の内訳などを算定したという経緯はあるが、実際に構想策定した段階と現在の近隣説明会の資料では、面積配分なども大きく変わってきているところもあるため、現状では株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが内部として株主に説明をする上での内部的な事業運営上の算定などは行っているとは思いますが、そういったところは外部には出していないので、所沢市にも明らかにはされていませんので、お答えしかねます。

島田委員

４月に住民説明会を柳瀬で行われたところであるが、そこで住民からどのような意見がでているのか。

市川経営企画

４月２２日のサクラニュースの報告会では、まず、東川沿いの道路整備

課主幹　　については、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡのところにバスが入る必要があるから株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡのために拡幅するのではないかとの質問があり、現状の道幅は、大型バスでも交互通行ができる道幅であって、２－５７２号線の拡幅については、歩道の整備をするための拡幅である旨の回答をしました。

　また、美術館や博物館に展示するものはどのようなものとなるのか。株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡはそのようなものを所蔵しているのかとの質問があり、美術品については高山辰夫氏や草間彌生氏のコレクションなどを株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが所蔵しているので、そういったものが展示されるであろうといった回答をしました。書籍等については、歴彦会長のお父さんである角川源義氏が歴史的資料として価値がある書籍をかなり所蔵されているということなので、図書館の部分でも博物的な資料は多数持っているということを回答しています。

　東所沢駅の駅舎について改善しないのかという質問があり、こちらについてはＪＲ東日本の整備ということになりますので、所沢市と株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡで今後も協力して働きかけていきますということで回答しています。

平井委員　　平成２８年３月に出された資料によりますと、年間７６万人から１４７万人を見込んでいて、１日当たりについては、休日は３，５００人から６，８００人を、平日は１，４００人から２，７００人の来場が予想されると

	いうシュミレーションをしていますが、来場者数がそれよりも少なくなっていると思われるという意味での質問だと思います。
城下委員	駅舎についてですが、一般質問で所沢市と株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡとＪＲ東日本で協議を始めているような答弁があったと思うが、その点について確認したい。
鈴木経営企画担当参事	株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡと所沢市とＪＲ東日本の３者で協議を始めているのではなくて、所沢市が東所沢駅に行って話をした旨の答弁をしています。
城下委員	ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想によって、地元からの要望があることからＪＲ東日本と協議をしているということであると思うが、改修する場合には自治体負担が生じるのか。全く生じないのか。そこを確認したい。駅の周りの整備とかっていうのも。
市川経営企画課主幹	改修の際の費用負担が自治体に生じるかまでの話は基本的にしていません。最終的には駅を改修することを会社として行うには、実績として駅を利用する人が多くなった事実が出てこないとなかなか手を付けにくいと駅長からの話を伺っている。建物が建つことで利用者が増えれば自然とＪＲ東日本が動き始める可能性が高いことを感じて帰ってきたという段

階であって、整備といった具体的なところには至っていません。

吉村委員

資料５－１の上から７段目の旧コンポストセンター跡地利活用事業というのは、具体的に構想は正式には発表されていないが、どういった形でやっていくのかよくわからず、バスのターミナルができるけど大型バスの駐車場はないとか、地元の農産物を置いて直売所的なものを作るという話もあるし、あとは、東川に橋をかけるという話もでています。もう一つは、親水公園という話もありました。当然県が絡むのでなかなか具体的な形は今言えないということもあったが、旧コンポストセンターの跡地の具体像はどの時点で示されるのか。また、ところざわサクラタウンは平成３２年に完成をして開業となるが、それと並行して周辺整備として旧コンポストセンター跡地の整備をしていくこととなるので、本体ができても周りがみすぼらしい形で全然整備されていない状況で、外国からの旅行客が来るのはうまくないのかなと思うので、具体的な形はどの時点で発表されるのか。

市川経営企画課主幹

まず、旧コンポストセンターの利活用に関してですけれども、本年予算では、プロポーザルの募集要項策定に関するコンサルがすでに決定しておりまして、そのなかでいわゆる基本計画のところまで今年度中にはそれを完了させると。来年度は基本設計と実施設計、平成３１年度中に完成をさせるという方向でスケジュール的には進めているところですが、ＰＦＩな

どを取り入れた場合には、実際には実施設計のタイミングなどが、年度の区切りではっきりと区切れるわけではなくなります。現在ＰＦＩ導入の手法も含めて検討しているのが現状です。その中では、旧コンポストセンターの跡地の施設の設置に合わせてブリッジを設置するという形ではなく、サクラタウンと旧コンポストセンターの間のブリッジの設置は必要であろうといったことについては両社の間では話はまとまっているので、どういった形、どちらが費用を負担するのかというような調整が今後必要になるかと思うが、おそらくは歩道橋のような形での川を越えるようなブリッジとして設置して、旧コンポストセンターの敷地の側には入るが、旧コンポストセンターの工事とは別での整備となると思われます。

親水公園については、もともと産業用地創出のプロットの絵を角川会長が見て調整池のところに親水公園をつくったらどうかというアイデアから起こっている話でして、実はそこは滞水池で一度溜めた下水を流すところの下流に当たるところであるので、水に親しむ公園を設置するのは衛生面からも厳しい旨の説明をして、親水公園の設置については、引いていただいたという状況でございます。

また、旧コンポストセンターの整備の完成については、サクラタウンの完成に合わせて整備をするということでそこからの逆算で現在整備のスケジュールの検討を進めているところです。

吉村委員

中高一貫校の誘致の関係の話は、具体的に進んでいる様子がないので、

現実、実際今どのような段階なのか、どういう状況なのかを説明してほしい。

鈴木経営企画担当参事　引き続き、学校法人と連絡を取り合っていまして、その学校法人は、他の学校法人と合併し、それに伴う事務が発生しておりまして、そちらが一段落してからということで、所沢への学校建設計画は変わっていないことを今年度の頭に確認しているところです。

吉村委員　所沢市としては学校法人の要望にこたえられるような土地が用意されていることでよいか。

鈴木経営企画担当参事　そもそも所沢市が土地を用意するものではなく、学校法人が民間の土地を購入してそこで建てるという計画です。それについて、法的な問題がないかどうか、クリアすべき課題はどういうものかという相談を受けていて、市として最大限建設ができるように配慮していくということで総合計画にも記載しているところです。

浅野委員　資料５－１の「ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想」関連予算と工事の関係ですが、市道２－５７２号線を拡幅してから、ファミリーマートのほうから実際工事が始まったら大型車が進入してくるということでよいか。この住民説明会に出した資料からすると。西口の再開発ビルもここ

よりも狭いけれども一日３０台から４０台が３往復して土砂を運ぶために１３０、１４０台の車両が住民の近くを通行していることについて町内会と話し合いをしているようです。ここはもっと広いからかなりの台数で、大型車がすれ違うことが大丈夫なものなのか。

中村委員長　市道２－５７２号線の改良の関係の現状の説明と工事車両に対しての出入りの状況について具体的な説明をお願いします。

市川経営企画課主幹　まず、市道２－５７２号線、東川沿いの市道、ファミリーマートからベルクまでの間の拡幅ですが、現在、今年度実施設計を行っているところでして、来年度早々には工事が始まります。その際には、現在の河川用地、道から川側にガードレールがあり、草が生えている敷地があるが、この河川用地を拡幅していくことになります。この上を車が通行する想定になりますので、そのためには護岸の工事が必要となり、この工事は川の中の工事となるため、いわゆる渇水期といわれる夏場を外した工事期間が中心となります。実際にサクラタウンの工事が始まるときには、まずは護岸側の工事をしている状態なので、トラックの通行ができなくなる状態にはならないと思います。トラック同士のすれ違いの通行ができなくなる時期は工事期間においては当然あると思いますので、そういうときには、警備が立ちまして通行が妨げられないような形での配慮はすることになります。

浅野委員	工事は夏場を外すということだが、護岸工事から始めるということだが、平成３２年の完成に間に合うのか。
市川経営企画課主幹	市道２－５７２号線の工事のスケジュールについて株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡは十分承知していますので、その中で無理のないような形でスケジュールをくみ上げていると聞いています。
浅野委員	住民の人が住んでいる家は、衛生センターの裏のほうで、実際にトラックが直接走る道ではないので、振動なりについて住民は安心しているという理解でよいか。工事の時間などについて合意が得られているということでよいか。
市川経営企画課主幹	工事の計画については、資料４の住民説明会の資料３５ページ以降にありまして、騒音、振動対策の内容につきましては、３８ページにありますように法を遵守しながら進めるということは当然のことでありますが、この導線上にある住宅ということですと、川沿いに３軒ほど住宅が並んでいるところがありますが、そこ以外は一般住宅の前を通るような導線ではありませんので、特に大型車が通行することでの騒音等の問題とかの質問はなかったと聞いており、どちらかといえば、オープン後の一般車の渋滞を心配されていたと聞いています。

亀山委員	工事車両が入る道が、国道から武蔵野銀行のところを右折して入ってきてヤオコーのところを通るが、そこは自転車事故がよくあるところだが、さらに工事車両が入ってくるということで、道路幅は狭いが何とか２車線にしたので、割と道路幅が狭いのだが、そこを工事車両の通行が安全にいくのかどうか。ヤオコーに入るために道幅としてはかなり狭いが、住民の方の意見もあって右折レーンを設けたものであるが、幅的には工事車両が入って時間帯によっては混雑するところで、意外と自転車事故があるところなんですが、そこの交通安全対策はどうなっているのか。
市川経営企画課主幹	個別の交差点の安全・危険の度合いについては、実際に通行する段階になって検証されることとなると思いますので、少なくともセンターラインが引かれている道幅のあるところで右折レーンを設けているのであれば、当然右折の車が止まっている横を直進する車が通れなければ、当然直進する車は止まると思いますので、そこは道路交通法規が遵守されるかと考えます。
亀山委員	もう一つ、工事車両が通行するところではないが、国道から東所沢駅北入口を下って東川沿いに右折して一般車が利用することが多いが、住宅があって道幅が狭く、桜の木もあって道路に出てきていることもあって、大型車両は入ってこないが、このような施設ができた場合の一般車両の交通量について想定をしているのか。

市川経営企画課主幹	一般車両の導線については、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側でも市道２－５７２号線から入ってくる流れを作ろうとしているので、その上でいわゆる交通安全上、市で対処が必要な部分については、例えば一方通行を設定することが必要になる場合には、所沢市として対応していきますが、基本的には民間の施設であることから交通の円滑化の計画については株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側で責任をもって対応することになります。
亀山委員	交通政策ではないが、多くの来場者がある施設であることから、議会でもところバスや路線バスのようなサクラタウンに行くために利便なものを考えていくような答弁もあったかと思いますが、そのことはいつ頃計画をして正式に伝えていただけるのか。
市川経営企画課主幹	まずは、ところバス、路線バスについてですが、旧コンポストセンターの跡地については、路線バスのバス停又はバスターミナルの機能をその中に設けていくことを検討しています。ただし、現在、基本計画を組む中でそういった機能を設けた上できちんと運営がしていけるのかというところを含めて検討していますので、当初の予定どおりバスターミナルやバス停の設置が可能である、問題ないということになれば、バス路線の経路も含めて、今後設計をしていくこととなると思います。

城下委員　今、旧コンポストセンター跡地の活用について、何人かの委員が質疑されていたが、昨年の７月２６日のチームスタート本部会議の会議録を情報公開請求して手に入れたのですが、その中で旧コンポストセンター跡地は市街化調整区域なので建物は市が建てなければならない。その後の運営を株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに任せてもいいのではとやり取りがされているが、市は駐車場やバス停、ファーマーズマーケットを市が作って、その運営を株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに任せて、橋もやっていくようなところまでの確認をしているのか。

市川経営企画課主幹　旧コンポストセンター跡地を使った施設の運営をどこがやるかについては、今後プロポーザルなどを行って決定していく形になります。今の段階で株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが引き受けるかなどの具体的な話は株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ側とは全くしていません。

城下委員　チームスタート本部会議では、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡという名詞を出していて、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに任せていいのではないか、やってもらうといいのではないかということで、話をしているが。

市川経営企画課主幹　チームスタート本部会議は、庁内の会議となりまして、その場に株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡは出席していません。「本部」がつかないチームスタート会議が、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡと所沢市の会議となります。

城下委員	確認ですが、市としては建物を市が作って、運営は株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに任せていきたいという方向で検討をしている。ただ、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡが受けるかどうかわからないけれども、市のスタンスとしてはその方向で進めているという理解でよいか。
市川経営企画課主幹	本部会議の中での発言については、あくまでもアイデアの一つとして株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに任せるというやり方もあるよねというようなところです。今の段階では、今後はきちんとプロポーザルなどを行って受けていただけるような企業体、事業者を探していくという状況です。
大石委員	今の旧コンポストセンター跡地利活用については、商業観光課が中心となっているということでよいか。 また、東所沢公園整備と駅前通りについては、例えば、アニメのコンテンツを活用しようとなれば、コスプレーヤーが訪れるようなイベントがたくさん開催され、航空記念公園ではそういった人たちが木々の中で撮影会をしている光景を見受けられ、東所沢公園がコスプレーヤーの撮影場所となることが予想するが、ここはサクラタウンの敷地と一体として活用されていくエリアとなることが想像できますが、東所沢公園整備はある程度株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡと連携して、お金も含めて、やっていく方法もあるのではないか。民間活力という形で必要なのではないか。公園課なども

含めてそういった議論を行っているのか。

駅前通りからの導線ということで、東所沢駅前通り歩道整備はモニュメントなども整備するという風に先ほど説明があったが、境港市の水木しげるロードについては、最初は市で妖怪のブロンズ像を整備したが、そのあとについては、境港観光協会で一つ１００万円くらいの寄付をいただいて、何百体も建て、年間３００万人を超える人が訪れている場所ですけれども、こういったように民間と協力をしなければできないことであり、また、ふるさと納税、企業版ふるさと納税を活用することが必要であると思うが、現在の検討状況についてはどうか。

市川経営企画課主幹

まず、東所沢公園の一体整備についてですが、所沢市としても、東所沢公園に接するあたりは、サクラタウンの広場に当たるようなところで、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡからもアイデアとして、屋台のようなマルシェが出たときに、東所沢公園と一体的にお祭りのような形でできるとよいといったアイデアもありますので、東所沢公園を整備していく上では株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡのアイデアをもらいながら、市として整備しておいた方がいい部分なども進めておくといったスケジュールも含めて調整をしている状況です。

駅前通りについては、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡからも荒俣宏さんにプロデュースしていただいて境港と同じだけど妖怪モニュメントを置いてみたらどうかなどのアイデアもありまして、ただ、ここについては費用負

担をどちらがどうみるかといった具体的な話には至っておらず、市が株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡのコンテンツを買ってやるのか、株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡに寄付してもらうのかを含めて検討している最中ですので、具体化する際には費用負担についても調整したいと考えています。

株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡから企業版ふるさと納税１，０００万円の寄付をいただいているので、今後は株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡだけではなく、いわゆるこういった事業に賛同していただける一般の企業などにも企業版ふるさと納税をしていただけるような魅力的な事業に成長できるようにしていきたいと考えており、制度の活用については十分考えていきたいと思います。

粕谷委員	ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想という形で進めていくと思うが、例えば、構想ができて東所沢だけで帰ってもらってよいのか。所沢駅と結ぶとか、所沢市全体のまちおこしにこの構想をどうやっていかしていくかという考え方や、考え方の中でも具体的な考え方など具体的な動きがあるのか聞かせてほしい。
市川経営企画課主幹	考え方としましては、先ほどの説明の中でも申し上げたとおり、ＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯＲＥＳＴ構想というのは、あくまでもサクラタウンがモデルとなって所沢市内にも波及していくというところを前提として考えていますので、所沢市のミニチュア版としてＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ　ＦＯ

	ＲＥＳＴ構想というエリアを捉えて、また、そこと広域でつながるためのネットワークといったところでは、所沢駅周辺であるとか、航空公園あるいは狭山湖とどういうふうに導線の連絡を図れるかを、常に頭において状態で検討を進めているというのが現状です。
粕谷委員	今後、その辺については、具現的にやっていくということでよいか。
市川経営企画課主幹	具体的にどういう方法が一番いいのかは、これから考える必要があるかと思いますが、所沢駅とバス路線のつながりであるとか、カルチャーパークとのサイクルレーンなどのつながりなど、まずは、そういった目に見える形でのつながり方があると思いますので、そういった整備やバス路線の設置など事業者への働きかけをやっていきたいと考えています。
杉田議長	以前から東所沢周辺で電線の地中化を求める動きがあるが、そのあたりはどのように協議されているのか。
市川経営企画課主幹	電線の地中化については、構想の冊子にも記載がありまして、景観の向上という意味では進めたいと考えています。実態として、まずは、サクラタウンの敷地に関わるあたりの地中化を進めたいと考えておりまして、そこの部分については事業者側の整備となるが、例えば今後東所沢駅前通りの地中化なども含めて東京電力と調整を進めたいと考えています。

【質疑終結】

（経営企画部退室）

（２）その他について

中村委員長　特別委員会と一般質問のあり方については、良識に任せることとなっているため、ご配慮いただくようお願いします。

散　　会（午後３時１８分）